小・中学校再編にかかる地区意見交換会（上堅田会場）

１ 日時　　令和８年１０月１９日（月）　１９時～２０時

２ 場所　　上堅田小学校体育館

３ 参加者　８人

４ 事務局　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	今回の学校再編案について、市民や保護者への説明より先に新聞発表が一番最初になった経緯や流れはどういったものだったのでしょうか。
事務局	市は基本的に、公表する際は市長の記者発表等で行いますが、その前に議会へ説明を行いました。その際、議会に出席していた報道機関が記事にしたというのが経緯でございます。市から報道機関にお願いして記事を出してもらったわけではなく、議会に説明した資料がそのまま報道された形となりました。市民の皆様への丁寧な説明や資料提示が間に合わず、報道が先行してしまったことにつきましては、深く反省し、お詫び申し上げます。
参加者	報道を止めることはできなかったのでしょうか。新聞記事に添付されていた再編の一覧表等が掲載されてしまった流れ・仕組みを教えてください。
事務局	報道機関に対して報道を控えるよう強制する立場にはございません。 今回、議会向けの資料をそのまま配るのではなく、市民や保護者向けにより分かりやすい資料を整えてから説明しようと時間をかけた結果、丁寧な説明より先に報道が出てしまいました。報道時期を把握できていなかったとはいえ、当事者である保護者や地域への説明より報道が先行してしまった手順の誤りを真摯に反省し、深くお詫び申し上げます。
参加者	今回、保護者や関係者に何の説明もないまま新聞報道が先行したことで、当事者が置き去りにされているような印象を受け、非常に驚き、不安や不信感を覚えました。
参加者	学校再編案には賛成の立場ですが、適正規模として示されている 1 学級 20 人以上について、上限となる 40 人学級は子どもにとって多すぎるのではないかと感じております。統合によって 1 クラスの人数が過密になるのではなく、子どもの学びを考えた余裕のあるクラス編成をしていただきたいです。

	また、学校数が減ることで市全体の教員数が減る懸念もありますが、再編にあたって県から教員の加配や人員配置などの支援はあるのでしょうか。市単独の取組なのか、県や国の支援体制があるのか教えてください。
事務局	現在、小学校 1・2 年生および中学校 1 年生は 30 人学級（県の独自措置）、小学校 3 年生以上は 35 人学級となっており、国全体としても 40 人学級は縮小傾向にあります。学級数は国や県の定数基準に基づいて決まり、それに伴って教員の配置数も決定されるため、市独自で自由に学級人数を小さく設定することは難しい面がございます。また、学校再編は市の政策ですが、市独自の判断だけで進めるものではなく、大分県教育委員会と連携して進めてまいります。過去の統合事例におきましては、統合後に「統合加配」として教員が追加配置された事例もございますので、そうした支援措置も含めて県へ働きかけてまいります。
参加者	説明の中では再編によるメリットが多く挙げられていましたが、再編に伴う具体的なデメリット（課題）について改めて詳しく教えてください。
事務局	課題（デメリット）と捉えている点は主に 3 点ございます。1 点目は、環境の変化による児童・生徒の心理的負担です。小規模校から大きな規模の学校へ移ることや、新しい人間関係への適応に伴う不安が懸念されます。2 点目は、校区が広域化することに伴い、地域と学校とのつながりが希薄化する点です。3 点目は、通学距離が長くなることによる通学方法の変更や、保護者の送迎等の負担が増加する点です。
参加者	今挙げていただいたデメリット（課題）に対して、現時点ではどのような対応策や具体的な方針を検討されているのでしょうか。
事務局	子どもの心理的負担に対しましては、統合前に学校間で合同授業や交流事業を行い、子ども同士が事前に顔なじみになれるような準備期間を設けてまいります。地域とのつながりにつきましては、コミュニティ・スクールを活用し、例えば蒲江翔南小・中学校で行われている「ふるさと里帰り学習」のように、統合後も生まれ育った地域との絆を大切にする教育活動を継続してまいります。通学面につきましては、スクールバスの運行支援や通学路の安全点検を実施し、児童・生徒や保護者の負担を軽減できるよう努めてまいります。

参加者	学校が大きくなることで友達が増える良さがある反面、いじめや嫌な思いをすること、新しい環境になじめないことへの不安も大きいです。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、現在想定されている支援策以外にも利用できる手立てを積極的に活用していただきたいのですが、どのような予定でしょうか。
事務局	学校の規模にかかわらず、一人ひとりを大切にする教育やいじめの防止、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりは重要なことだと考えております。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置・活用につきましては、統合後も子どもたちの状況や環境に応じて適切に配置してまいります。また、コミュニティ・スクールが地域における子どもの「安全基地」や「第 3 の居場所」として機能し、地域住民が見守りや声かけを行うことで、孤立を防ぐ役割を果たせるよう取り組んでまいります。
参加者	市 PTA 連合会を通じて教育委員会へ提出している要望書（通学路の整備や校舎設備の改修など）について、学校再編が予定されていることによって優先順位が変わってくるのでしょうか。後回しにされたり、存続校へ予算が偏ったりするのでしょうか。子どもが快適に過ごせるよう、学校の火災や獣害（イノシシ）、不審者への対策など、子どもの命に関わる修繕や通学路の安全対策は、再編に関わらず改善していただきたいです。
事務局	学校再編が予定されているからといって、現在通っている児童・生徒のための安全確保や修繕計画を後回しにするようなことはございません。PTA からの要望書は例年 12 月中旬頃に教育委員会へ届きます。全校からの要望を精査し、緊急性や安全面を最優先に考慮しながら、限られた予算の中で適切に対応してまいります。
参加者	アンケート結果を見ると、保護者は「やむを得ない」と受け止めている方が多い印象ですが、送迎の負担や子どもがなじめるかどうかの不安は大きいと思います。一方で、「地域が衰退するから学校を残してほしい」という意見を耳にすることがありますが、子育て中の親としては、地域のために学校を残すという考え方には少し違和感があります。これまでの他会場の意見交換会では、どのような立場の方からどのような意見が出ているのでしょうか。
事務局	これまでの会場におきましても、保護者の方からはスクールバス運行や通学路の安全確保、放課後児童クラブの継続、急激な統合ではなく段階的な再編

	を望む声など、子どもたちの生活に直結するご意見を多くいただいております。一方で地域の方々からは、学校がなくなることで地域コミュニティが衰退することへの強い危機感や、伝統行事・地域活動の維持に関する不安などが出されております。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	**発言内容**
参加者	私自身、かつて小規模校に通い、同級生が非常に少ない環境で学校統合も経験しました。また、他の学級が複式学級で授業を行っている様子も見てきました。学校がなくなる寂しさはよく分かりますが、極端な少人数で授業を受けるよりは、ある程度の人数の中で切磋琢磨し、多様な意見に触れながら学ぶ環境の方が子どもの成長にとっては良いのではないかと感じております。
参加者	本匠小学校が小規模特認校として市外等からも児童・生徒を受け入れているように、海辺の地域などでも特色ある学校として残す選択肢があっても良いと思います。また、フリースクールのような自由な学びの場を公教育の中に設けることで、市外・県外からの移住促進や少子化対策、子どもの増加にもつながるのではないでしょうか。
参加者	私はベビーブームの世代で、かつて生徒数が多すぎて学級が増設され、新設校へ移るという経験をしました。当時は環境の変化に戸惑いもありましたが、先生方が一生懸命対応してくださり、生徒同士で切磋琢磨することができました。その後、上堅田小学校区で子育てをし、灘小学校との統合も経験しましたが、スクールバスの運行が始まったり、地域に新しい家が建って活性化したりする良い面もありました。少子化が進む現在においては、その時代に合った学校規模や教育のあり方を柔軟に考えていくことが重要であると実感しております。